

認知症サポーター活躍事例集



千葉県マスコットキャラクター
「チーバくん」

令和4年3月

千葉県

健康福祉部高齢者福祉課

目次

☆千葉市	1 ページ
市川市	2 ページ
船橋市	3 ページ
木更津市	4 ページ
☆松戸市	5～14 ページ
旭市	15 ページ
☆柏市	16 ページ
市原市	17 ページ
八千代市	18 ページ
鎌ケ谷市	19 ページ
富津市	20 ページ
四街道市	21 ページ
袖ケ浦市	22 ページ
☆白井市	23 ページ
南房総市	24 ページ
神崎町	25 ページ
芝山町	26 ページ
横芝光町	27 ページ
長柄町	28 ページ

☆印は、チームオレンジとして活動している事例です。

チームオレンジ・・・認知症サポーター等がチームを作り、認知症の人やその家族の支援ニーズに合った具体的な支援につなげる仕組み。

認知症サポーター活動事例

市町村名	千葉市 (稲毛区)
チームオレンジ	○

事例紹介

☆認知症サポーターによる認知症カフェの運営及びボランティア活動☆

【参加者】

認知症の人とその家族、地域住民、ボランティア、認知症サポーター、あんしんケアセンター(地域包括支援センター)、認知症サポーターステップアップ講座受講者、認知症地域支援推進員、市職員など

【参加までの流れ】

○平成28年2月

あんしんケアセンターから認知症カフェの運営について相談があり、カフェをスタート。

○令和3年5月

市からの紹介で認知症サポーターステップ講座修了者1名が加わる。

○令和3年11月

スタッフのうち、認知症サポーターステップアップ講座未受講の2名が講座を受講。

現在は、認知症サポーターステップアップ講座修了者3名、認知症サポーター1名が活動している。

【活動内容】

○毎月第1土曜日にあんしんケアセンターの面談室をお借りして認知症カフェを開催。

認知症サポーター1名と認知症サポーターステップアップ修了者2名は運営スタッフとして、認知症サポーターステップアップ修了者1名は傾聴をメインとしたボランティアで参加。

○チームオレンジ活動の一環として、認知症サポーターステップアップ講座修了者と協力し、認知症の方本人にやりたいことをお聞きし、認知症カフェの時間を利用して、認知症の方本人と協力し、実現に向けて活動しています。

○現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入場制限をしていますが、色々な方と繋がるためオンライン(Zoom)も活用しています。



「花を育てたい」「野菜を育てたい」を実現！！



「アルツハイマー月間に大型ショッピングセンターでの認知症啓発イベントで配布するシオリをみんなで作成



認知症サポーターステップアップ講座修了者がカフェ参加者の発言や活動内容をイラストで記録

認知症サポーター活動事例

市町村名	市川市
チームオレンジ	

事例紹介

☆認知症カフェ等でのボランティア☆

【参加までの流れ】

○認知症サポーターステップアップ講座

認知症サポーターを対象に「ステップアップ講座」を開催。
活動を希望する修了者と、地域包括支援センター及び認知症地域支援推進員をつなぐ。
(個人情報提供に同意した修了者とのマッチング)

○ウェブサイトで活動情報提供

認知症サポーターがボランティアとして参加できる認知症カフェの情報を、
認知症市川市公式ウェブサイト「認知症カフェ」のページに掲載。

URL: <http://www.city.ichikawa.lg.jp/wel102/1111000096.html>



○「認知症カフェ」リーフレットの配布

認知症サポーター養成講座においてリーフレットを配布し、活動の場として紹介。



【活動内容】

○認知症カフェ開催の準備やお手伝い、傾聴ボランティア、交流など。

○市が委託した認知症カフェ、登録カフェで活動した認知症サポーターは、年1回市が報告を受け、人数・活動回数を把握。

(参考)令和2年度報告数 認知症サポーター30人が延38回認知症カフェで活動

認知症サポーター活動事例

市町村名	船橋市
チームオレンジ	

事例紹介

☆認知症に関するイベントへの参加☆

【活動までの流れ】

○「ふなばしオレンジネット」

平成28年度から「認知症の人にやさしい船橋」を目指し、市内在住・在勤で、認知症サポーターをはじめとした、認知症関連の情報に興味がある方を対象に、メール配信を行う「ふなばしオレンジネット」を開始。

配信内容は認知症に関するイベント情報や認知症に関するボランティア募集等で、認知症サポーターも含めた多くの方に登録いただき、登録者は令和3年12月31日時点で約62,000人。

【活動内容】

認知症に関するイベント情報として、下記イベントの情報をこれまでに配信し、ボランティアや参加者として認知症サポーターの方が参加。

○メモリーウォーク

認知症の理解と病気に対する社会への啓発活動のためのパレードで、市民まつりにて実施

○RUN伴

認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指し、認知症の人もそうでない人も、みんなでタスキをつないで日本を縦断するイベント

○認知症高齢者徘徊模擬訓練

認知症高齢者本人の気持ちに配慮した声かけや見守り方を学び、徘徊高齢者を地域で見守る仕組みを作るための訓練

○認知症カフェ

認知症の人やその家族、地域住民、専門職など誰もが気軽に集い交流できる場

ふなばしオレンジネット【イベントのご案内Vol. 21】
2018年9月7日 10:50

～RUN伴2018船橋実行委員会よりお知らせです～

平成30年9月8日(土)に、「RUN伴(とも)2018船橋」が開催されます。

認知症のご本人やその支援する様々な人々が参加し、市民に広く知っていただくマラソンイベントです。

今年は船橋市内5圏域にわかれてそれぞれスタートし、各圏域のゴールを目指して、タスキを繋ぎますので、見かけましたら声援をお願いいたします。

また、15:00から船橋競馬場にてゴールイベントを行いますので、ご参加ください。

<日時>

平成30年9月8日(土) 9:00～16:00

※午前は各圏域にわかれてのマラソンイベント。

午後は15:00～16:00に船橋競馬場でゴールイベント。

<コース>



メモリーウォークの様子
(令和元年7月28日)

オレンジネットの配信画面

認知症サポーター活動事例

市町村名	木更津市
チームオレンジ	

事例紹介

☆認知症カフェの運営及びボランティア活動☆

【参加までの流れ】

もともと認知症サポーターであった方、新たに認知症サポーターになった方が、認知症カフェ運営やイベントへの参加。

【活動内容】

○認知症カフェ

市内の認知症カフェで企画・運営・お茶出し・傾聴などを行っている。

また、令和3年度はコロナ禍ということで、一部の地域では「出前カフェ」として、地域の方々を訪問する活動も行った。



○認知症メモリーウォーク・千葉in木更津への参加 (一般参加及びスタッフ)

【きさらづオレンジフェスタ2021】として、「認知症メモリーウォーク」と、認知症カフェを紹介するイベント「認知症カフェフェスティバル」を同時に開催。

参加者全員は集合することなく、歩くグループごとに受付・ウォーク・解散をする「分散実施」などの感染症対策を講じ、幼児から高齢者まで多くの方が参加。

市民体育館で、認知症カフェの紹介、認知症の本人の作品展示、啓発グッズの配布等を実施。



令和3年10月3日 開催報告

きさらづオレンジフェスタ2021

認知症メモリーウォーク・千葉 in 木更津 & 認知症カフェフェスティバル

参加者 124名 (一般参加77名 (子ども含む) スタッフ47名)

ご協力ありがとうございました!

協力機関
 君津水更津医師会第一分会/ウエルシア薬局株式会社/大島洋行/君津信用組合/新堀和りピンス/宅配ワック 123 水更津駅前店/合衆労働事業所フェリスト/八重堂せさらづ/ロータスインヤマ/SOMP0 ひまわり生活/福清池スポーツプラザ/水更津市健康推進委員協議会水更津市厚会/水更津市消費生活センター/マイサービス心花/防府看護ステーション花くじら

主催 認知症メモリーウォーク・千葉 in 水更津実行委員会/水更津市在宅医療・介護連携推進協議会

共催 君津水更津医師会第一分会/合衆福祉チーム・アオ水更津/水更津市地域包括支援センター

後援 君津水更津福祉協議会/君津水更津医師会後援会/おぎんエージェンシー

認知症サポーター活動事例

市町村名	松戸市 (小金地域包括支援センター)
チームオレンジ	

事例紹介

☆認知症サポーター養成講座 人形劇作成☆

【参加者】

- ・オレンジ協力員
- ・地域包括支援センター職員

【参加までの流れ】

- ①認知症サポーター養成講座を受講し、オレンジ協力員の登録をした方に、小金地域包括支援センターから定例会(月1回)の案内を郵送。
- ②オレンジ協力員定例会で役割分担の打合せ。
- ③役割の担当者ごとに地域包括支援センター事務所に集まり作成作業。

【活動内容】

- ・認知症の人への接し方の、やってしまいがちな良くない対応、良い対応について人形劇を通じて分かりやすく伝える動画を作成。
- ・台本作成は、地域包括職員が専門的な立場から認知症の病気の特徴を踏まえた場面設定を提示し、オレンジ協力員と物語にしていって。
- ・コロナ禍で、動画作成は、スタッフが密にならない様に、人形制作チーム、背景画作成チーム、吹替チーム、人形を動かすチームを作り、シーンごとに日時を変えて撮影した。
- ・撮影、動画編集は地域包括が行い、難聴の人でも劇の内容が分かりやすいよう、字幕を編集した。

地域包括支援センターが開催する認知症サポーター養成講座で会場開催、オンライン開催共に活用している。



認知症サポーター活動事例

市町村名	松戸市 (小金地域包括支援センター)
チームオレンジ	○

事例紹介

☆オレンジ協力隊パトウォーク☆

【参加者】

- ・オレンジ協力員
- ・地域包括職員
- ・参加希望者

【参加までの流れ】

- ①認知症サポーター養成講座を受講し、オレンジ協力員の登録をした方に、小金地域包括支援センターから定例会(月1回)の案内を郵送。
- ②定例会で実施エリア、個別訪問先を確認し実施計画を立てる。その後は、エリアごとの集集場所に集まり活動。
- ③参加者には、地域包括から、オレンジ協力員が手作りしたオレンジのタスキを配布。

【活動内容】

1. オレンジパトウォーク(周知活動)月3回

参加者:オレンジ協力員のみ

タスキを付けて、北小金駅前では通行人へのチラシ配布、及びエリアごとのポスティング。チラシは、「オレンジ協力員をご存じですか?」チラシ、「小金地域包括支援センター紹介」チラシ等。

2. オレンジ協力隊パトウォーク(周知活動+個別訪問) 3エリアごとに月1回

参加者:オレンジ協力員、その他希望者、地域包括職員

オレンジパトウォークに加え、個別訪問を実施。

個別訪問先は、地域包括職員が事前に訪問し、本人、家族に希望を確認。訪問は玄関先のみで10分程度。



認知症サポーター活動事例

市町村名	松戸市 (小金地域包括支援センター)
チームオレンジ	

事例紹介

☆介護者のつどい☆

【参加者】

- ・介護をしている家族
- ・介護経験のある方
- ・オレンジ協力員
- ・地域包括支援センター職員

【参加までの流れ】

- ①認知症サポーター養成講座を受講し、オレンジ協力員の登録をした方に、小金地域包括支援センターから定例会(月1回)の案内を郵送。
- ②オレンジ協力員定例会で開催日ごとの参加者を調整

【活動内容】

- ・年6回の小金市民センター会議室で介護者のつどいを開催。
- ・5～10名程度のこじんまりとしたピアカウンセリング。
- ・アドバイザーとしてオレンジ協力員が2名参加。
- ・参加後は、オレンジ協力員定例会で他のオレンジ協力員に感想や学びについて報告。

認知症サポーター活動事例

市町村名	松戸市 (小金原地域包括支援センター)
チームオレンジ	○

事例紹介

☆チーム♡KOGANEHARAの活動☆

【参加者】

地区内のオレンジ協力員を中心に、地区外のオレンジ協力員も参加している。

【参加までの流れ】

認知症サポーターのうち、オレンジ協力員に登録された方々が興味関心のある活動に参加して、認知症の人やその家族への実践的な支援をされる。その際には、包括等の専門職と協働で行うことを心がけ、チームケアの担い手になっている。

【活動内容】

栗カフェ・ガーデン、パトウォーク、出張包括、個別支援、その他包括主催の事業の数々に、毎年アンケートをとり参加している。



栗カフェ・ガーデン



体操教室



パトウォーク



栗カフェ・ガーデン
「モルックをみんなで！」

認知症サポーター活動事例

市町村名	松戸市 (常盤平地域包括支援センター)
チームオレンジ	

事例紹介

☆認知症サポーターによるオレンジパトウォークの実施☆

【参加者】

地域住民、認知症サポーター、地域包括支援センター職員

【参加までの流れ】

認知症サポーター養成講座を受講し、オレンジ協力員に登録している方に声をかけ活動している。他にもチラシや紹介を受けて参加されている地域住民もいる。

【活動内容】

月1回程度、地域の見守り活動、普及啓発用のチラシのポスティングを行っている。消費者被害、フレイル、熱中症当、季節にあった内容のチラシを利用している。

みんなで一緒に歩くと、知らなかった道や景色の再発見も！！
認知症サポーターだけでなく、MCIの方にも参加いただき、認知症予防にもなっています！！



住民の見守りだけでなく、地域に危険な場所はないかの見守りも行っています！



オレンジ協力員さんが作ってくれた折り紙作品も一緒にポスティング♪

認知症サポーター活動事例

市町村名	松戸市 (常盤平地域包括支援センター)
チームオレンジ	

事例紹介

☆認知症サポーターによる認知症カフェの運営☆

【参加者】

地域住民、認知症サポーター、地域包括支援センター職員

【参加までの流れ】

認知症サポーター養成講座を受講し、オレンジ協力員に登録している方がボランティアとして認知症カフェの運営している。

【活動内容】

・月1～2回月曜に認知症カフェを開催。

運営(場所の予約、会費の管理、活動内容の記録)や手芸・折り紙等作品作りの講師を行なっている。

コロナ禍で飲食やお喋りが出来ない分、物づくりの内容やカフェの開催場所を変更して継続！認知症サポーターが自主的に考え運営しているため、参加者だけでなく認知症サポーターの認知症予防活動になっている。



針と糸を使った小物の作成や
季節に合った折り紙作品の作成♪
コロナ禍でイベント活動が少ない分、
カフェで季節感を感じられるように
しています！



認知症サポーター活動事例

市町村名	松戸市 (常盤平団地地域包括支援センター)
チームオレンジ	○

事例紹介

☆認知症サポーターにより、認知症の方が閉じこもりにならず気軽に地域の活動に参加する支援☆

【参加者】

認知症の方、オレンジ協力員、地域住民、包括職員

【参加までの流れ】

オレンジ協力員と包括職員がご本人宅に迎えに伺い市民センターまで一緒に行く。
認知症予防、介護予防効果もある体操や脳トレに参加。
終了後、オレンジ協力員、包括職員見守りのもと帰宅。

【活動内容】

○気軽に立ち寄れる活動の場として月に1回、市民センターにて約1時間、オレンジ協力員による体操、脳トレを実施。

○ロコミによる参加の呼びかけ。



認知症サポート活動事例

市町村名	松戸市 (馬橋地域包括支援センター)
チームオレンジ	○

事例紹介

☆オレンジ協力員によるくつろぎの場所の運営☆

【参加者】

認知症の人とその家族、民生委員、地域住民、オレンジ協力員、包括職員

【参加までの流れ】

○まいにちが日曜日：毎週水曜日の午後、喫茶店を借りて、地域住民の誰もが気軽に寄れる場所として民生委員・オレンジ協力員と話し合いをし、開催する事になった。

○中和倉(なかわくら)くつろぎの場所：毎月第3月曜日の午後、コロナ禍で、交流機会が減少し、近くで参加できるサロンとして開設した。

○三ヶ月(みこぜ)くつろぎの場所：毎月第2水曜日の午後、コロナ禍で、交流機会が減少し、近くで参加できるサロンとして開設した。

【活動内容】

○まいにちが日曜日：地域で気になる方を訪問し、状況確認とサロンへのお誘いをする事をオレンジ協力員に依頼し、サロンでの手伝いを民生委員に依頼した。

(参加者の話し相手・傾聴・情報共有)

○中和倉・三ヶ月くつろぎの場所：オレンジ協力員が主催し、おしゃべり・ゲームを楽しんだり、包括職員からの情報提供をしている。

馬橋地区 集いの場

- 三ヶ月会館**
松戸市三ヶ月1451
みんなのくつろぎのばしょ 三ヶ月
第2水曜日 午後 1:30~3:30
参加費：100円
お問合せ：渡辺 090-4717-1464
- まいにちが日曜日**
松戸市八ヶ崎3-78-3 あり
みんなのくつろぎカフェ
毎週水曜日 午後 1:30~3:30
コーヒー・紅茶：200円
お問合せ：047-374-5533
- 中和倉集会所**
中和倉319
みんなのくつろぎのばしょ・中和倉
第3月曜日 1:30~3:30
参加費：100円
お問合せ：友山 080-3125-7701
- 馬橋東市民センター**
松戸市馬橋1854-3
くつろぎカフェ
第1月曜日とその他1日 10:00~13:00
参加費：100円
お問合せ：友山 080-3125-7701
- 中和倉集会所**
中和倉319
介護士研修教室
毎週土曜日 9:00~10:00
参加費：500円
定員：20名(要予約)
お問合せ：折戸 090-2493-9041
- 馬橋高齢者いきいき安心センター**
(松戸馬橋地域包括支援センター)
松戸市中和倉130第1コーポンダ103
電話：047-374-5533



市町村名	松戸市 (馬橋地域包括支援センター)
チームオレンジ	○

事例紹介

☆オレンジ協力員による認知症高齢者の個別支援☆

【参加者】

オレンジ協力員、包括職員、認知症高齢者

【参加までの流れ】

○包括支援センター近くの施設の利用者で、徘徊を繰り返している認知症高齢者の支援として、オレンジパトウォークの時に、本人を施設に迎えに行き、一緒に外出をする支援をする事になった。

○初期集中で関わった徘徊を繰り返している認知症高齢者の支援として、オレンジパトウォークの時に、本人宅に迎えに行き、一緒に外出する事になった。

【活動内容】

○第1・第3木曜日15:00～16:00：パトウォーク

(参加者の話し相手・傾聴)



認知症サポート活動事例

市町村名	松戸市 (馬橋地域包括支援センター)
チームオレンジ	○

事例紹介

☆オレンジ協力員による散歩支援☆

【参加者】

認知症高齢者・オレンジ協力員、包括職員

【参加までの流れ】

○近隣住民から、気になる人がいると相談があった認知症高齢者。日中独居の方で、日中は一人で自宅で過ごしており、他者との関わりがなかった。

【活動内容】

○第1・第3木曜日午後1時～午後2時：パトウォークの前に、本人と一緒に近くの公園へ散歩に行き、地域の方達と触れ合う支援をしている。

○第2・第4水曜日午前10時～11時&午後2時～2時30分

(参加者の話し相手・傾聴・情報共有)



認知症サポーター活動事例

市町村名	旭市
チームオレンジ	

事例紹介

☆通いの場の協力・運営☆

【参加者】

地域住民

認知症サポーター養成講座を受講した介護予防サポーター

【参加までの流れ】

○一般介護予防事業 介護予防サポーター養成講座(初級・中級)を受講
講座の中で「認知症サポーター養成講座」を実施
→市内各地区で実施している通いの場への参加、運営

【活動内容】

○市内(31箇所)の通いの場(団体により開催頻度は異なるが、週1回程度)の運営
あさぴー☆きらり体操の実施



☆認知症サポーター養成講座での介護経験談の紹介☆

【参加者】

認知症サポーター養成講座の受講希望者

キャラバン・メイト

認知症サポーター養成講座を受講した介護経験者の方

認知症コーディネーター



【参加までの流れ】

認知症サポーター養成講座受講者でボランティア等の協力が可能な方を名簿登録。
その中で認知症の方を介護された家族を対象に講師を依頼

【活動内容】

認知症サポーター養成講座と認知症介護経験者の講話の二部制として開催。
認知症コーディネーターに協力してもらい、認知症介護経験者の方(認知症サポーター)と
談話形式で実施し、介護経験談について話をしてもらった。

認知症サポーター活動事例

市町村名	柏市
チームオレンジ	○

事例紹介

☆オレンジフレンドの活動☆

【参加者及び参加までの流れ】

認知症サポーター養成講座を受講し、サポーターとなった方のうち、ボランティアに参加する意欲のある人をオレンジフレンドとして登録し、名簿を作成。在住または在勤場所の各地域包括支援センターに登録をして、以下の活動を行っている。また、年に1回、フォローアップ研修を実施している。

【活動内容】

○認知症介護者交流会の実施

認知症の人を介護している方と会い、介護をしている中で抱く思い等を語り合い、情報を交換する場。地域包括支援センターが主催で行っている。

(介護者が語り合う中で、認知症ご本人の方々の見守りや傾聴、運営の補助)

○かしわオレンジホットカフェ(認知症カフェ)の実施

認知症の人やその介護者などが交流したり、外出の機会を提供したりするもの。ゲーム、お茶会、専門家による相談を行っている。地域包括支援センターが主催で行っているカフェの運営補助やオレンジフレンドが運営するカフェがある。

(カフェの準備やお茶だし、参加者の傾聴、片付け)

認知症カフェ開催時の様子



○オレンジ散歩の実施

公園内を認知症の人やその介護者などと一緒に散歩を通じて交流する場。地域包括支援センターが主催でオレンジフレンドと協力して行っている。

○出張オレンジ散歩の実施

オレンジ散歩の会場まで行けない方に対し、近隣のオレンジフレンドが出張し、認知症の人が地域の方と一緒に散歩する機会を作る。

オレンジ散歩の様子



フォローアップ研修の様子

市町村名	市原市
チームオレンジ	

事例紹介

☆オレリン会の活動☆

(「オレリン会」とは、オレンジリングを持っている人(=認知症サポーター)が自分のできる範囲で、認知症の人やその家族を支援する取組みを行う会)

【参加者】

認知症サポーター養成講座を修了した人

【参加までの流れ】

認知症サポーター養成講座を修了した人に、「オレリン会」への参加を呼びかけ、どのような取組みができるか、定期的に集まり検討している。

【活動内容】

○イベントへの参加

例年、認知症に関するイベントで認知症の基礎知識や脳トレを紹介するボランティアスタッフとして参加。

○認知症啓発のためのマスコットキャラクターの作成

・ロバ隊長とロバのマスコットの作成

介護施設や薬局などに展示するため、ロバ隊長(認知症サポーター養成講座のキャラクター)の作成、小学生の認知症サポーター養成講座修了者へ配布するロバのマスコットを作成

認知症イベント(認知症あんしんフェスタ)の様子↓



完成したロバ隊長↓



認知症サポーター活動事例

市町村名	八千代市
チームオレンジ	

事例紹介

☆世界アルツハイマー月間への協力☆

【参加者】

認知症サポーター・認知症サポーターの友人・地域包括支援センター職員

【参加までの流れ】

世界アルツハイマー月間の市民周知の為、認知症サポーターキャラバンのロバ隊長のグッズを窓口に飾りつけをした。相談窓口のツリーにロバ隊長のマスコットを飾り、飾り付けた。

【活動内容】

- 世界アルツハイマー月間の市民周知の為、ロバ隊長のグッズを作成することを担当が認知症サポーターに伝え打合せする。
- ロバ隊長の絵を参考に、フェルトでマスコットを作り、ツリーに飾りつけた。厚紙で作成したロバ隊長は飾りつけとして付けた。



認知症サポーター活動事例

市町村名	鎌ヶ谷市
チームオレンジ	

事例紹介

☆認知症に関する講座への協力等☆

【参加者】

認知症サポーター養成講座

…市民、キャラバン・メイト、市担当者、オレンジサポート員

認知症レベルアップ講座

…認知症サポーター、市担当者、地域包括支援センター職員（認知症地域支援推進員）、認知症サポート医、ボランティアセンター職員、オレンジサポート員

認知症早期発見・早期予防プロジェクト

…市民、市担当者、講師（OT、PT、MT、認知症サポート医等）、地域包括支援センター職員、オレンジサポート員

オレンジカフェ

…市民、市担当者、地域包括支援センター職員、認知症サポート医、病院施設職員、オレンジサポート員

【参加までの流れ】

認知症サポーターを対象としたレベルアップ講座を実施。レベルアップ講座受講者をオレンジサポート員として登録し、認知症に関する講座への協力を依頼。

【活動内容】

○認知症サポーター養成講座の運営補助（受付や消毒等）

○認知症レベルアップ講座の運営補助（受付や消毒等）
令和元年度登録者が令和2年度の講座を手伝い。

○認知症早期発見・早期予防プロジェクトの運営補助（体カテストの補助、教室内の消毒等）

○オレンジカフェの運営補助や、ロバのマスコット作成による普及啓発活動



認知症サポーター活動事例

市町村名	富津市
チームオレンジ	

事例紹介

☆認知症サポーターフォローアップ研修☆

【参加者】

認知症サポーター、認知症地域支援推進員、各地区包括支援センター、市職員等

【活動内容】

認知症サポーター養成講座を受講したサポーターを対象に認知症サポーターフォローアップ講座を行った。

☆見守り声かけ訓練☆

【参加者】

認知症サポーター、認知症地域支援推進員、各地区包括支援センター、市職員等

【参加までの流れ】

認知症サポーター養成講座実施し、グループワークを行い、その後、実際に見守り声かけ模擬訓練を行った。

【活動内容】

認知症サポーター養成講座で学んだことを踏まえて、市職員が扮する認知症のおばあさんに、声かけ等を行った。

ふふふの笑顔がいっぱいな富津！
富津市認知症見守り声かけ模擬訓練

<当日の流れ>

日にち 令和3年12月9日(木)

場所 富津イオン 3F (旧) ikka 区画

時間 13:00~14:30
認知症サポーター養成講座

14:30~15:30
☆見守り声かけ模擬訓練

☆「あれ？どうしたのかな？」
当日、認知症のおばあさん？！
認知症サポーター養成講座で学んだ
「声かけ」を実践してみよう！



認知症サポーター活動事例

市町村名	四街道市
チームオレンジ	

事例紹介

☆認知症に関するイベントへの協力☆

【参加者】

認知症の人とその家族、入居者、地域住民、認知症サポーター、介護事業所職員、地域包括支援センター職員 など

【参加までの流れ】

- ① 認知症サポーターを対象にステップアップ講座を実施。
- ② 認知症の方と接したことのない方もいるため、希望者は施設での体験を実地。(現在は開催を見合わせている。)
- ③ ボランティアミーティングを開催し、具体的な活動のイメージを広げてもらう。
- ④ ボランティアミーティング参加後、ボランティア登録とする。
- ⑤ 活動できそうなことをアンケートで確認し、名簿で管理。
- ⑥ イベントに合わせて協力の声掛けを行う。

【活動内容】

○地域包括支援センターが行うオレンジカフェや、オレンジカフェ立ち上げに向けた地域でのワークショップなど。

○オレンジカフェで知り合った方が、当日、本人宅へ迎えに行き、一緒に参加。また、参加のなかった方の自宅に訪問するなどのつながりができている。

○オレンジカフェでは、サポーターの方も内容の企画や運営について、スタッフとして関わっている。また、サポーターの方、サポーター以外の方も得意分野を生かしてレクリエーションなどを担当している。

○ご本人の参加が多いオレンジカフェや、オンラインを活用したオレンジカフェなど、様々な取り組みが広がっている。

活動の様子



認知症サポーター活動事例

市町村名	袖ヶ浦市
チームオレンジ	

事例紹介

☆認知症カフェ及び認知症予防教室への参加☆

【参加者】

認知症の方、介護をしているご家族、市民、認知症サポーター

【参加までの流れ】

認知症サポーター養成講座や認知症サポーターステップアップ講座受講者に対して活動先を紹介。

【活動内容】

○オレンジカフェ袖ヶ浦

認知症カフェが市民により設立運営され、毎週1回、水曜日に開催している。認知症や介護予防に関するミニ講座やイベントも実施している。ボランティアがシフト制で参加。



○ひらかわオレンジカフェ ウェルカフェ

社会福祉法人が運営する認知症カフェが設立され、毎月第4月曜日に開催している。認知症サポーターは参加者の話の傾聴や体操等プログラムの補佐など。



○認知症予防教室

市が運営する認知症予防教室にて、受付や、プログラムの中で係を担当し、参加者を補佐する。



認知症サポーター活動事例

市町村名	白井市
チームオレンジ	○

事例紹介

☆事例名☆

- ①「お楽しみ処(認知症カフェ)」の運営 ②訪問活動による見守り支援
- ③「認知症家族介護教室」や「本人ミーティング」の運営サポート
- ④認知症家族会への参加

【参加までの流れ】

認知症サポーター養成講座受講



認知症パートナー養成講座受講(ステップアップ講座)



既存の活動先や新たな活動につながり、活躍。



【活動内容】

①お楽しみ処(認知症カフェ)の運営:計市内2か所

地域包括支援センター、介護事業所職員(有志)等と協力しながら運営。長期休みには、認知症サポーター養成講座を受けた市内高校生の参加もあった。地域包括支援センターからつながった参加者と共に、なしたレ体操、交流タイム等の運営を行う。



②訪問活動による見守り支援

認知症状により引きこもりがちな方への玄関先への訪問(月2回)を通して、交流の機会、見守り支援を行う。また、お楽しみ処参加者に対し、声掛け及び会場までの同行や、参加が困難となった際等に、訪問対象とし、つながりが維持できるよう継続支援を行っている。



③「認知症家族介護教室」や「本人ミーティング」の運営サポート

市主催の認知症に関する講座で、運営のサポートを行っている。認知症家族介護教室では、交流タイムに各グループに入り、体験談やアドバイス等に繋がっている。

④家族会への参加

介護事業所主催の家族会につながり、③同様、体験談やアドバイス等に繋がっている。

市町村名	南房総市
チームオレンジ	

事例紹介

☆中高生を対象としたボランティアスクールの開催☆ ○福祉ボランティアスクール

【参加者】

ボランティアに関心のある市内の中学生および高校生

【参加までの流れ】

市内中学校および高等学校にチラシを配布。定員20名(先着順)で参加を募り、電話・メール・申込フォームのいずれかで申し込みを行った。

【活動内容】

南房総市社会福祉協議会が主催し、市内の中学校・高等学校に通う生徒を対象に福祉ボランティアスクールを開催。福祉に関心を持ち、考え、体験するというシリーズで開催している。今年度は認知症や車いすについての講座を企画した。コロナウイルスの感染状況が悪化していたため、第1回は中止、第2回はweb開催。

全3回の構成で、第1回は『ボランティア』について、第2回は『災害に備えて、できることを考える』、第3回は『認知症の理解と車いす体験』をテーマに実施。

写真は第3回の様子で、前半は介護の現場経験も豊富なキャラバンメイトの皆さんによる、認知症サポーター養成講座を行い、参加した生徒の皆さんに認知症サポーター証を配布した。後半は車いすに実際に乗ったり、動かしたりしながら障害について考え、学びを深めた。

認知症サポーター養成講座の様子↓



車いす体験の様子↓



認知症サポーター活動事例

市町村名	神崎町
チームオレンジ	

事例紹介

☆神崎町発酵カフェ(認知症カフェ)におけるボランティア☆

【参加者】

地域包括支援センター職員、認知症サポーター、デイサービス職員(リハビリ職)、認知症の人及び町内在住65歳高齢者等

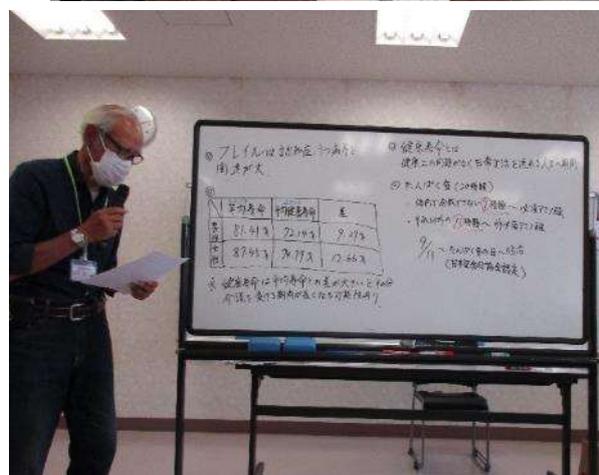
【参加までの流れ】

認知症サポーター養成講座、受講終了後のアンケートにおいて、認知症カフェボランティア希望依頼をし、ボランティアを募る。(認知症カフェの概要及び実際に行っているボランティアの様子を講座終了後に口頭説明実施)

【活動内容】

参加者とのコミュニケーションをとったり、傾聴等を行う。また、ボランティアさんが日々学んでいる知識についての講話等を実施し、場の雰囲気を作っている。

以下、カフェにおける写真↓↓



認知症サポーター活動事例

市町村名	芝山町
チームオレンジ	

事例紹介

☆認知症サポーターによる認知症カフェの運営☆

【参加者】

○認知症の方やその家族等 ○地域住民 ○認知症サポーター(ボランティア) ○居宅介護支援事業所の介護支援専門員 ○地域包括支援センター

【参加までの流れ】

○認知症サポーター養成講座受講者で、認知症カフェの運営ボランティアとして活動してくれる方に認知症サポーターフォローアップ講座を実施

【活動内容】

○しばっこカフェ(認知症カフェ)の企画、運営

○月1回 しばっこカフェ開催

会場の準備、参加者の体調チェック、受付、お茶出し、傾聴、レク等の提供



ボランティアと参加者がトランプをしている様子

認知症サポーター活動事例

市町村名	横芝光町
チームオレンジ	

事例紹介

☆認知症カフェへの参加☆

地域包括支援センターで月に1回、第1土曜日に認知症カフェを開催しており、希望する認知症サポーターが運営として参加している。

【参加者】

認知症の人とその家族等 他 計約10名
町担当者1名
認知症サポーター 1名
ボランティア 2～3名
地域包括支援センター職員 6名

【活動内容】

お茶出し手伝い、飾りつけ、傾聴など。



☆地区介護予防教室での指導☆

介護度重度化防止推進員の皆さんが認知症サポーター養成講座を受講しており、地域で介護予防運動や脳トレ等の指導を行っている。

【スタッフ】

介護度重度化防止推進員(11人のうちサポーター養成講座受講済みは8人)

【活動内容】

希望がある地区サロン等に出向き、介護予防や認知症予防について指導を行っている。



認知症サポーター活動事例

市町村名	長柄町
チームオレンジ	

事例紹介

☆介護予防出張教室の運営☆

【参加までの流れ】

○広報等で募集を行う→応募された方を対象に介護予防推進員(スマイルながら)養成講座を受講→希望者には認知症サポーター養成講座を受講→受講後は、各教室の運営・参加

【活動内容】

- ①各地区の介護予防出張教室(月1回:14地区、週1回:5地区)の運営
介護予防体操や認知症予防の脳トレ等の実施。
- ②認知症サポーター養成講座の実施
小学生4年生、中学校3年生を対象に実施。

【参加者】

- ①介護予防教室は参加者5~15名程度、推進員は2~4名
- ②小学校は1クラス約17名、中学校は約15名

【各介護予防教室の様子】



【認知症サポーター養成講座の様子】



☆認知症カフェでの活動☆

【参加までの流れ】

○認知症サポーターへボランティア募集の通知
→活動希望者は委託先のデイサービスへ連絡・名簿を記入
→現在登録者7名

【活動内容】

○町内のデイサービスに委託し月1回、基本第3土曜日に運営スタッフとして参加。
・お茶出し手伝い、傾聴、脳トレ体操などを実施。

【参加者】

○認知症の方とその家族約10名
認知症サポーター3名、デイサービス職員3名



